

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービス ハートぽっぽEAST		
○保護者評価実施期間	R6年1月1日		～ R6年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35名	(回答者数) 35名
○従業者評価実施期間	R6年1月1日		～ R6年12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月15 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	それぞれの障がい特性に合わせて支援の方法を随時見直し、検討しながら行っている。	多様な支援のニーズのある子ども達一人ひとりにより良い支援を提供するため、関連機関の情報を取り入れて職員が学びながら実践に結び付ける努力をしている。	各関係機関とお互いに職種の役割を理解し、チームとなり一緒に支援していく。
2	長く従事している職員が多いので、過去の情報を踏まえながら、お子さんのライフステージあわせた継続的な支援ができています。	年齢に応じてのお子さんの成長、変化に長く関わりながら、将来を見据えた長期的な支援を目指している。	職員にとっても働きやすい職場環境を整えていく。
3	積極的に各関係機関との連携を図っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・「サロン・ド・ぽっぽ」 ・お子さん、ご家族、各関係機関、地域の方々との交流の場として開催。(土曜日不定期) ・他事業所との合同イベントを実施。 ・パラスポーツイベント、体操教室への参加。 ・大学と連携イベントを実施。 ・近隣中学の職場体験の施設として協力。 ・自立支援協議会への参加。 ・きょうだい児支援団体と連携 	災害対策の地域での連携 健全者との交流の機会を増やす。(スポーツなど)

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	外出をする機会が少ない。	車いすが多いので移動手段が難しい。職員の数が確保できないと対応できないこともある。	学校休業日など活動時間が長い日は、年間で外出の計画を立て、車両の手配、スタッフの増員をはかる。その際にボランティアなど人材を集めるネットワークづくりをしていく。
2	災害時の対応。	緊急時に自力で避難が困難な肢体不自由のお子さんが多い。	さまざまな災害を想定しての訓練は年間通じて実施している。想定外のことも考えると十分ではないと感じている。一事業所だけで解決するのは難しいので、地域や自治体、企業などが連携して災害に備え、災害時にお互い協力する取り組みをしていく必要がある。
3			